

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 29年 6月 19日			
所属学部・研究科	総合科学部／研究科 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	バスク大学 (国名: スペイン)			
所属学部・学科等名				
在籍身分				
留学期間	平成 28年 9月 2日 ~ 平成 29年 5月 22日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 不要 (EU パスポート所持のため)			
	ビザ申請先:			
	取得方法, 提出書類:			
	手続きに要した日数:			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 28年 9月 2日			
経路	東京羽田国際空港→パリ・シャルルドゴール空港→ビルバオ空港			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	現地到着後の次の日に大学にてプログラムが主催するオリエンテーションが2日にわたり行われた。授業の履修方法やスケジュールについての指導とともに、生活に関する留意点などのインストラクションもあった。			
帰国年月日	平成 29年 5月 22日			
経路	ビルバオ空港→パリ・シャルルドゴール空港→東京羽田国際空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	2,186,680	円	
	内訳	渡航費	182,270	円
		保険料	84,410	円
		教科書代(学費)	30,000	円
		宿舍費	460,000	円
		食費	270,000	円
		その他 (生活費)	415,000	円
(旅行費)	500,000	円		
(交際費)	245,000	円		

3. 授業について						
2016年 前学期	9月	3日	～	12月	15日	
2017年 後学期	1月	18日	～	5月	16日	
年 学期	月	日	～	月	日	
年 学期	月	日	～	月	日	
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	主に語学を学ぶための授業をとることがベースであった。語学に加えて。会話の授業や文化、歴史の授業をとることができた。さらに、食文化について学ぶための料理の授業の履修も可能であった。					
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること					
学術面に関する後輩へのアドバイス	自分に合った授業選びを現地でもしていく必要がある。そのため、現地の運営者などに相談して授業の選択をするとよい。					
4. 生活等について						
(1) 留学先の住居について						
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()					
住居の広さ	約	m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (2人) <input type="checkbox"/> 無		
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input checked="" type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()					
住居費	1ヶ月当たり	457ユーロ (現地通貨)	約	56,788円		
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()					
留学先での住居全般に関するアドバイス	住居について不明な点や不都合がある場合は早急にプログラムの事務や家主に連絡するとよい。住居については途中で変更することもできるため、自分に合わないと思ったら別の居住方法に変更を希望するのがよい。					
(2) 医療について						
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった					
入院した場合	により 日入院					
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった					
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()					
掛け金は	年間	84,410円	補償額	死亡	10,000,000円, 入院1日	円
	その他 (治療救済費用 100,000,000円)					
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無					
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名						
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:					

留学先国の医療事情 (日本と比較して)	日本と大差はないが、日本のようなドラッグストアはなく、個人で薬を手に入れることが困難である。そのため、薬を買いたいときは公的な医療機関で受けた処方箋が必要である。	
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	健康管理はすべて自分で留意しなければならないことなので、きちんとした生活習慣の確立を留学先においても心掛ける必要がある。また、渡航に当たって必要と思われる薬や風邪薬は日本で購入して持っていくのが良い。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
イタリアのローマを旅行中に、同行者がテルミニ駅周辺でポケットに入れていたスマートフォンを奪われた。周囲の助けを求めるともできず、とても危険に感じた。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
自分の身は自分で守らなければならないということと、慣れない土地ではいつでも油断は禁物であるということを念頭に置いたうえで留学生生活を過ごさなければならない。そのために、不必要なものは持ち歩かない、目立つ格好をしない、持ち物に不注意にならないなどといった自分なりの対策を考えて実行することが重要である。また、色々な誘惑がある海外の中で、自ら危険予測をして、危ないことにはかかわらないよう、周囲に流されずしっかりと自分の意思を貫く強さを持つ必要もある。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 30 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 30 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	現在は就職活動を行っており、留学を活かせるような職に就きたいと考えている。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	留学前にはできるだけ多くの単位を取得した。また、帰国後効率よく就職活動を行うために、渡航前に就職サイトへの登録を行ったり、情報収集をできるだけ行った。さらに、研究室配属についての手続きも留学前にすべて終わらせていた。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
留学は誰もが期待と不安を抱いて行うものであるが、しっかりとした留学の目的を持っていれば、渡航先でもそれが原動力となるだろう。何事もやってみなければわからないということを念頭に置いて、多くのことにチャレンジし、たくさんの人と出会い交流することで、自身を最大限に成長させられる留学にしてほしいと思う。安全で充実した留学をできるよう、情報収集などを通して万全の準備をして留学をむかえるとよい。		

学習の概要に関するレポート

今回の留学期間中は主にスペイン語とスペインの文化について授業で学んだ。月曜から金曜まで、午前中に90分間スペイン語の授業を受け、曜日によっては、午後にスペインの政治や社会、慣習を含む文化の授業やスペイン映画を教材にフランコ統治下のスペインについて学ぶ授業を履修した。

スペイン語の授業では、テキストや先生が用意した資料を用いて文法を学び、1か月に2回のペースで定期テストを受けた。留学期前期(9月～12月)では中級クラスを選択し、基本的な文法をすべて学んだ。後期(1月～5月)はさらに上のレベルのクラスに上がり、主にライティングの訓練とスペイン語の物語をチャプターごとに要約するという課題に挑戦した。

私は、留学を終えるころにスペイン語の語学試験(DELE)を受けることを目標としていたため、そのレベルに達するために日々スペイン語を使い続けるよう意識して過ごした。毎日出される課題に加えて、語彙を増やす練習やリーディングなどを行うことで、ひとりでもスペイン語に触れる時間を絶やさないように心掛け、効果的に語学力を伸ばすことができた。

文法中心の授業以外に、会話の授業、スペイン文化の授業、スペイン映画の授業があり、すべてネイティブの先生よりスペイン語で教わった。まだスペイン語がなかった前期は会話の授業で語学力を伸ばし、後期では文化について学んだりプレゼンテーションやレポートで評価される授業に取り組んだ。

さらに、料理の授業を選択し、毎週決まった曜日に地元の料理教室の先生からスペインの伝統的な料理を学んで自分たちで作り、自らの舌で食文化を体験した。この授業は、生活を始めて間もないスペインやバスク地方について知る有効な機会となり、同じプログラムに参加している留学生とも知り合えるきっかけとなった。

留学期間中には短期間の休日がいくつかあったので、スペイン各地をたくさん訪れた。そこでは歴史的な建造物や世界遺産がある街について多様に学ぶことができ、スペインの伝統料理や文化にも触れることができた。旅行中私が心掛けたのは、なるべく現地の人々に話しかけたり、疑問点を質問したり、日本のことを話したりといった会話を生み出せるような旅行をすることであった。

今回の留学プログラムは、積極的にスペイン語に触れられるような環境が整えられており、私自身スペイン語を効率よく上達させることができたという点において大いに満足のいくものであった。そのため、自身の目的を見失わず、学習を続けていくことができ、留学当初から掲げていた、スペイン語語学試験を現地で受験するという目標を達成することができた。全体を通して、言語習得にとどまらず、異文化に暮らす人との交流の仕方や自身のアイデンティティについて多くのことに気づくことができた。

生活の概要に関するレポート

留学期間中は、学校まで電車で約20分の場所にあるアパートで生活した。アパートでは、同じプログラムで留学していたアメリカ人学生とルームシェアをした。そのため、家では英語を話し、学校ではスペイン語を主に話すという生活だった。

毎日授業を終えると、バスク人の特徴を観察したり、街の土地勘を得るために街歩きをした。街を歩いていると人に道を聞かれたり、自分で他人に話しかけたりして、現地の人々との会話の機会を生むことができた。海外ではスーパーでの買い物など日常生活の中でも貴重な経験のチャンスがあり、私はそこでスペインの食文化を学んだり、店員とコミュニケーションをする絶好の機会を得た。そのため、家にこもらず常に外に出て生活することを意識した。

私が参加していたプログラムでは会話パートナーを自分で探さなければならなかった。現地の学生と知り合うために自ら大学のキャンパス内に張り紙を張り、日本の文化に興味を持つスペイン人学生の募集をした。そのため、多くの現地学生と知り合うことができ、互いの言語学習を向上することができたと同時に、文化の違いについて語り合い、現地で行われているイベントなどに一緒に参加し貴重な思い出になった。

さらに、現地に住む日本人の紹介でスペイン人に週に3回日本語を教える活動に取り組むことができた。その経験を通して自身のスペイン語能力を大いに向上させることができた一方で、日本語の難しさや日本文化の魅力、その伝え方について深く考えさせられ、私自身もっと日本について学習する必要があると気づかされた。

アパートでの生活においてもたくさんの学びがあった。アメリカ人学生とのルームシェアで、異なる生活様式や価値観を持つ人々との共同生活をする術を学んだ。共用スペースは自分たちで掃除当番を決めて清掃するようにしたり、夜はうるさくしないなどアパート内でのルールを定めるために自らルームメイトに呼びかけ、積極的に彼女らとの交流をはかった。このように、スペインに留学中であるにもかかわらずアメリカ人との生活をしていたため、アメリカの文化も同時に学ぶことができ、自身の英語力を向上させるだけでなく、アメリカ人に対する新たな認識や発見をすることができた。全体を通して、良好な関係を保つことができ、ともにスペイン語を学び、時には国内旅行をともにするほどの仲になった。

日常生活では日本での生活と変わりなく、勉学に励むとともに家事もこなしていた。何かと環境に慣れない海外で、自身の健康を保つことが非常に重要であると考えていたため、毎日の食事を規則正しく摂ることを心がけ、健康で安全な留学生活を過ごすことができた。

どのような出会いも待ってはいは訪れない。効果的な言語習得のために街で自分から人に話しかけることによって、日本ではなかなか経験しなかった人とのコミュニケーションを体験できた。自分が海外にいるからこそ積極的になれた。人間としての自分を大いに自立させることができ、見知らぬ土地であってもそこでの生活に自身を適応させ健康で安全な生活を送ることができた。